

2012年8月よりアメリカ合衆国カリフォルニア大学バークレー校工学部 Applied Science and Technology 博士課程に所属しています、森です。渡米して早二年です。簡単に近況等をレポートします。

1. 研究室変更編

僕は二月の中旬に、約1.5年間所属していた研究室を辞め、別の研究室に移りました。これについて、薄っぺらなフワフワした文章ですが軽く追って説明していこうと思います：

前回のレポートの通り、去年の年末に口述試験に合格、無事 PhD 生活を続けられるようになりました。しかし肝心な問題が残っていました。所属していた研究室に対して、常に“ハマらない”感覚を感じ続けていた事です。ここでいう“ハマらない”感覚とは、色々なニュアンスを含んでいて、研究室の雰囲気や、研究テーマ自体について、引いてはラボメイトや教授についても包括していません。

PhD 課程に入学した際には、「俺ダメだわあ」などと自虐ネタをかましつつも、やってやるぜ！というやる気を心の奥底にプスプスと燻らせながら、表には出さずに虎視眈々と色々企んでいたコソ勉野郎の僕ですが、この一年半の間は、ほとんど“何もできず”に過ぎてしまいました。自分なりに足掻いて努力もしているのだけど、自分の中で結果としてゼロ、何もできてない状態です。この違和感はもしかしたら体験した事がある人しかわからないかもしれません。僕も初めての事でした。やっているのにやれていない、という謎の感覚です。自分に責任があって、自分が悪いから、自分に努力が足りなくて、自分ができない人だからうまくいっていないのだ、と自分を責め続けて、とにかく努力を続けるしかない、と息巻いていました。しかしそんな自虐芸(?)を元気よくかましている中でも、時間はあっという間に過ぎていきます。コレ、誰かスタンド使ってるだろ！メイドインヘブン使ってるだろ！と思いかねないスピードで時は加速し、気づいたら何もできずに一年以上経過という現実。一体どうしてこうなったのか。時間、若さ、そして勢いを失い、得たものはストレスと吹き出物、そして無駄に磨かれた自虐芸。こんな理不尽で悲しい取引は中々ありません。自分史上初でした。

特に僕にとって致命的だったのは、研究プロジェクトが全く上手くいってないことでした。というかコレがうまくいってないと全てが暗黒面（ダークサイ

ド)へ墮ちます。僕はラボに入った時点でコレというプロジェクトが無かったため、最終的に教授にボンヤリと大きな括りでやって欲しいと言われた中から自分で捻出したことをやっていました。自分の今までのバックグラウンドと違うモノで、それはそれでやり甲斐もあるし、学べる事は多いので、その点では良いのですが、ラボの中の誰にも研究についての相談や議論をできない事が最もきつかった部分でした。うまく進むはずもなく、全くうまくいっていない僕を横目に、(上から与えられたプロジェクトを何も考えずにただ測定しているだけで“結果”が出ているような)ラボの先輩からは、上から目線で全く役に立たないアドバイスをぶつけられては「自分本当にダメだなー」と思い悩みました。どう考えてもうまくいかないネガティブな手応えを抱えつつ、モチベーションも興味もあまり湧かず、疲労感だけは一人前な毎日を過ごしました。せめて他にいくつかプロジェクトを掛け持ちできればまだ安心ですが、他は無く。こういう事をいうと“優秀な”人達は頼んでもいないのに「テーマが無いなら自分でつくればいいんだよ！」とマリーアントワネットばりの貴族的アドバイスをしますが、無知な僕には無理な話でした、すいません。所詮は他人事なわけ、大体皆2秒くらいで考え付くような無責任なアドバイスを投げるだけで助けてくれません。というか、その場で考え付くような正論的アドバイスはこっちもすぐに思いつくし、こちらは既にそれを踏まえた上で悩んでいるので、もはや話がかみ合わない事もしばしばです。他人の正論は暴力になりかねないことを学びました。結局のところ自分で自分の事は決めて、なんとか状況を改善するべく動くしかありませんでした。

色々思い悩んでは何かを試す中で、うまくいかない自分へ妙な罪悪感のようなものも抱き、ひたすら葛藤しつつ一度自分の置かれている状況や将来等を考えた結果、全てを変更して再スタートしようと決意しました。というか、早くしないともっと手遅れになるし(すでに1.5年の遅れは致命的かもしれませんが)、とりあえず何が何でも急がねば、動かねば、と焦りました。特に変更希望先の物理学科の研究室のPhD取得平均年数は6年を優に超えています。僕、早死にしそうだし、これ以上遅くなったらPhD取得より先に寿命がきて死んじゃうんじゃないか！？といった感じで、めんどくさがるの僕ですが、さすがに死を意識したら焦燥感にかられ、急いで行動を起こし始めました。

変更の際は口述試験のchairも勤めてくれた比較的親しい教授にまず相談し、似たような状況で変更した経験のある人から話をきき、変更希望先の教授や学

生と面談し、慎重に事を運びました。PhDにおいて、研究室に入るという事は結婚に例えられます。ラボを移るという事はすなわち離婚を切り出した後すぐに再婚するようなもので、相手に依っては激怒しかねません。幸い、僕の当時の指導教官は菩薩のように優しい人であったので、真摯に僕の話聞いてくれて、僕のやりたい事を尊重してくれました。

結果、無事研究室変更は済み、最近新しい分野について勉強しなしております。研究だけでなく、新しい環境に順応することももう少し時間がかかりそうですが、適度に焦りつつ謙虚に頑張っていきたいです。

2. 英語編

妙な時期に研究室を変更した為、教授からの予算のサイクルの都合上、船井奨学金受給期間後のRAポジションがとれるか微妙、という自体が発生しました。最悪TAする事も覚悟しておけよ、とも教授に言われたため、それに備えなければいけませんでした。TAをするためには、入学時のTOEFLのSpeakingが26/30以上の点数が必要です。これ、おそらく純粋ドメスティック育ちの日本人には割と不可能に近い数字だと思うのですが、僕の当時のスコアは16/30だったので、日本人には無理だとか云々言う以前の問題でした。そういう口下手な人は、別の試験を受けて、それで規定以上の点数を取ることを課されます。最終的に軽い模擬授業をして色々質問に答えていく、という試験を受け、結果、ギリギリセーフで晴れてTAをする資格をゲットしました。が、その後、若干のギャップ期間はできるものの、RAのような枠に入れそうとのことで、結局TA試験のために勉強した期間は無駄になりました。まあいい経験できたかな、とポジティブに捉えようと必死です。というか練習に付き合ってくれた友人に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

3. 雑感編

キン肉マンという漫画に、ジェロニモというキャラクターが出てきます。彼は人間なのですが、超人へ強い憧れがあり、超人達の中で一生懸命戦っていきます。しかし彼は超人ではないので、他の超人達に比べれば脆くて弱く、とても不利なキャラです。最近このジェロニモへの親近感が半端ないです。「お、おまえは俺か！」と。ジェロニモの「だってオラは人間だから」というセリフだけでご飯三杯はいけます。僕は自分が、どんな事でもどんな状況でも打破でき

る超人ではない事を思い知りました。知りたくなかったですし、受け入れる事は少々きつかったのですが、これを知る事は今後生きていく上でとても役に立つと思います。

巷では、「逃げちゃダメだ…逃げちゃダメだ…」と主人公が呟きながら強敵に立ち向かい、見事撃破、一躍ヒーロー、かっこいい！というような価値観が蔓延していますが、これ、たぶんあまりよくないです。逃げることや辞めることに対して漠然と悪印象を与えて、とりあえず努力を続けることを美德とする価値観はたぶん多くの人を不幸にしている気がします。ラボ変更も含め、僕の今までのしょぼい経験からですが、相性（才能面、環境面など、色々な要素を含んでいます）というものがあって、それはものすごく大事であるという事を知りました。これは当たり前のことですが、意外と身にしみてわかっている人は少ないのではないかな、と感じます。特に過去になんらかの成功体験がある人は、自分の力で不利な状況を打開できると心の奥底で信じている人が多いのではないのでしょうか。相性が悪い状況でいくら努力しても無駄です。ある程度苦しんだら、時には逃げたり辞めたり、という選択肢もアリだと思います。

人が何か大きな事をするとき、必ず周りになぜかネガティブキャンペーンをする人が現れます。妖怪ネガキャンと僕は命名していますが、この妖怪はとにかく正論を振りかざしてとりあえずで否定にかかってきます。彼らは日本に古来から一定数生息しており、出る杭を打つことも得意です。昔から感じていますが、他人からの不躰な正論(?)攻撃は、本当に無責任な言葉が多いです。辞める、諦める→悪！という思考回路が根底にあるように感じますが。彼らの言う通りにしたとこで、彼らがこちらの人生を背負ってくれるわけではありません。ましてや、そもそもですが、この世のいくつもある選択肢の中で、正解・不正解がハッキリとあるわけではありません。大体のことは、犯罪行為等の‘絶対アウト’と‘その他’で分かれています。絶対アウトなラインだけ見極めたら、あとはできるだけ人に迷惑をかけない範囲で自分の好きに道を選べばいいのではないのでしょうか（まあこれ自体も投げやりで他人事ですが）。全てを味方につける事は無理ですので、自分の事をしっかりとわかってある程度ちゃんと努力もできるような人は（ケースバイケースかもしれませんが（これも投げやりです）、妖怪の投げかけてくる言葉全てを真に受けるのではなく、もっと力を抜いて、自分の好きに選択して生きていくのが一番基本だと感じます。以上、自己正当化を兼ねた笑、最近の雑感でした。

4. 最後に、編

一体この報告書をどのくらいの人が読んでいるか知らないですが、もしも万が一、僕と似たように悩んで生きづらく感じている人がいて、これを読んで少しでも救いになれば嬉しいです。そして毎度毎度、ダメなことばかり綴った謎の報告書（のような何か）を書いている僕ですが、実際はそこそこ無事に生きているし、書いていないだけで楽しい事もあります。たまにこの廃人レポートを読み、謎の心配をしてくれる方もいて申し訳ないです。なんだかんだ元気にやっています。（特に家で一人の時とか）めちゃくちゃ明るくハツラツとしていますよ！